

避難時に使用する防災用品 ～部屋の小物として配置出来る避難用品～

Disaster prevention supplies to use during evacuation
～Evacuation supplies that can be placed as accessories in your room～

伊羅胡 ひかり
指導教員 谷上 欣也

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 プロダクトデザイン研究室

近年自然災害は増加傾向にあり、避難用品の需要が高まっている。一人暮らしの若者をターゲットとし1DKの部屋に住んでいると想定。小物や家具として部屋に配置出来る、避難時に使用する防災用品と非常用持ち出し道具の提案を行う。

防災, 避難道具, 家具, インテリア, 災害

1, 研究目的

近年、自然災害は増加傾向にある。そのため避難所に着いてから使用する道具とは別に避難時に使用する道具も必要だと感じ小物や家具として部屋に配置出来る防災用品があればいいと考えた。

2, 調査内容

災害は増加傾向にあり、防災用品の需要はあるかの資料調査に加え、家に防災用品は準備しているのか、その防災用品はどこに置いてあるのか意識調査の2つを実施した。

2-1) 災害は実際増加傾向にあるのか。

国土交通省の調べより自然災害(主に地震・水害・土砂災害)は年々増加している傾向にあり、自然災害が起こった際すぐ避難をしなければ行けない状態が多い事がわかった。また、災害が起こった際に速やかに避難する為の道具に需要がある事もわかった。

2-2) 災害が増加傾向の中、備えができていない人が多いと仮定しGoogleフォームにてアンケート調査をおこなった。

10代から60代の年代103人に調査をした。

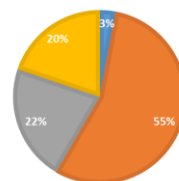
● 避難時・避難後に使用する用品がしっかりと準備されていると回答した人は40代が多い。

● 防災用品を持っていないと回答した人は20代が多かった。

● 避難後に使用する道具のみ持っている人が多く避難時の対策ができていない人が7割いた。

防災用品はどのようなものがあるのか

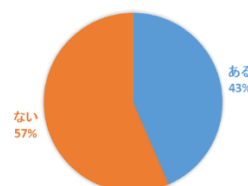
■ 避難時に使うもの ■ 避難後に使うもの
■ どちらもしっかりある ■ 持っていない



2-3) 上記のアンケートより「若い世代の一人暮らしでは防災用品の準備がより出来ていないのではないか」という仮説を立てGoogleフォームにて10代から60代の46人に調査した。

一人暮らしをしている時、防災用品の準備をしっかりと出来ていたと回答した人のほうが少なく、出来ていないと回答した人のほうが多かった。そして防災用品が部屋にないと回答した人の中で年代別の調査したところ、20代が「1番準備できていない」と回答した割合が多く、2番目に50代が多かった。

一人暮らしをしていた際防災用品が家にありましたか？



3, コンセプトおよびアイデア展開

上記の調査より、「20代の若者世代で一人暮らしをしている人」をターゲットにし、避難時に使用する防災用品を考えた。一人暮らしの若者がターゲットのため「1DK」の部屋に住んでいると想定し、アイデア展開を行った。部屋が広くないため防災用品を置けるスペースが足りない事を考慮し、防災用品をすぐに取出すことができ、なおかつ小物や家具として普段使用出来るものとして提案することによって一人暮らしの部屋にも場所を取らず置くことが出来る。

アイデア

●サイドテーブル型防災用品入れ

普段はサイドテーブルとして使用でき、サイドテーブルの中が空洞になっていることにより防災用品を収納することができる。

●避難時に使用する防災クッション

中身はひざ掛け・笛・スリッパ・軍手等が入っており、非難するときに使う道具が入っている。

●クッション型防災頭巾

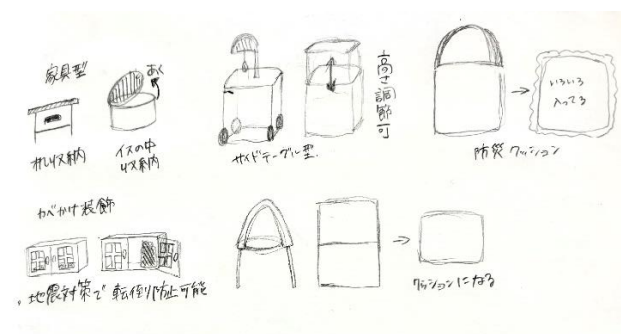
普段はクッションとして使用できるが災害時に防災頭巾として活用できる。

●壁掛け貴重品入れ

壁掛け入れに貴重品などの大切なものをしまっている事により災害が起こった際この壁掛けを非難時に持ち出すことができ、災害が起こった後の盗難を避けることができる。

●壁掛け防災棚

壁掛け装飾とし飾っておけ、棚になっていることによって防災用品が収納できる。災害が起こった際はこの棚ごと持ち出すこともできる。



4, 提案物

「避難時に使用する防災クッションの提案」

中身の詳細：防災頭巾・ひざ掛け・笛・スリッパ・軍手等

クッション内部に上記のものが入っており、普段はふわふわクッションとして使用ができ、避難が必要な際はクッションについているチャックより中身を取り出し自分自身を守れる物が取り出せる。ポケットを数個作ることによって自身が避難する時に必要なものを入れる事や、どこに何が入っているのかを一目でわかることも出来る。

「非常用持ち出し防災バック」

備蓄とは別に1~2日間避難先で過ごせるものが入った家具バック。

この二つのアイデアは災害が起こって直ぐに持ち出すことが出来、部屋に置いても場所を取らないこと、コンセプトとターゲットにもあっているため最終提案物にした。

5, 今後の展開

本作品の制作をおこなうと同時に災害が起こった際自分が考えている道具以外に必要なものが不足してないかの確認をする。

その後ターゲットとしている若者にアンケートや実際に使用した時の調査をおこなう。

参考文献

[1]国土交通省

<https://www.mlit.go.jp/> (閲覧日：2024/10/14)

[2]国土交通白書

<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/r01/hakusho/r02/html/n1115000.html>

(閲覧日：2024/10/14)

[3]内閣府 防災情報ページ

https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h22/09/special_01.html (閲覧日：2024/10/14)

[4]気象庁 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

(閲覧日：2024/10/14)